

2024年度 校内研究全体計画

伊万里市立松浦小学校

1 研究主題

9年間のつながりを大切にした人権・同和教育の研究
～自分の思いを伝え合い、互いに認め合う反差別の行動ができる子どもの育成をめざして～

2 主題設定の理由

現在、様々な人権課題の解決に向けて取組が行われ、2016年の「障害者差別解消法」「ヘイトスピーチ解消法」「部落差別解消推進法」など、人権課題の解決をめざす法令も整備されつつある。しかしながら、佐賀県内においても、「佐賀メルカリ事件」「県下一斉模擬試験における不適切な出題事案」等、課題となる出来事が起きている。このような現状を踏まえ、2023年3月には「全ての佐賀県民が一人一人の人権を共に認め合い、支え合う社会づくりを進める条例」が公布された。学校においても、本条例や、文科省「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」等を踏まえながら、児童・生徒が自他の人権を守るための実践的行動に結び付くような教育の推進が必要である。

東陵中校区においては、1993年に大川中学校と松浦中学校が統合し東陵中学校が開校した。4年後には、「同和教育実践の促進」「教職員の同和教育への認識と実践力の向上」「児童・生徒の反差別の認識の涵養」を目的に、共通の教材を用いた全学年における人権学習の授業実践が始められた（以下、「共通教材」）。その後、保小中連携も含めた年3回の合同研修会が設けられ、2004年以降は共通教材の小学校相互参観や全職員参観、教材の見直しなど実践の在り方について試行錯誤が続けられた。現在においては保小中で学年グループを設定しての参観、小学校6年生部落史学習「人の生き方に学ぶ」、中学校における部落差別解消のための学習等、系統だった実践が継続されている。2025年度には義務教育学校「東陵学園」の開校を控えている。これまで東陵中校区で取り組まれてきた実践をより深め、系統性を意識した研究へ移行していきながら、自分の思いを伝え合い、互いに認め合う反差別の行動ができる子どもの育成をめざしていく。

本校は、単学級で全校児童数96名の小さな学校である。本校の児童は明るく素直な児童が多い。また、異学年と活動することも多く、高学年の児童が低学年の児童の面倒をよくみたりやさしく声をかけたりしている。しかし、自分のよさや居場所を実感できない子ども、互いの思いを伝え合いながら人間関係をつくることのできない子ども、自分たちで問題を解決するすばらしさを実感できない子ども、不登校傾向にある子どもなどさまざまな特性をもつ子どもたちがいる。すべての子どもたちが、自己肯定感や自己有用感をもち、互いに認め合うことができるようになるとともに、仲間とつながり、今以上に生き生きと主体的に行動できるように本主題を設定した。

3 研究の目標

人権・同和教育の実践を通して、自分の思いを伝え合い、互いに認め合う反差別の行動ができる子どもを育てるための9年間の系統的な指導方法を探る。

4 研究の仮説

9年間の系統的な学習を通して知的側面、価値的・態度的側面、技能的側面の3側面の向上を図れば、自他の人権を尊重し、反差別の行動ができる子どもの育成につながっていくであろう。

5 研究の各内容と方法

(1) 人権が尊重される環境づくり

- ・ 個に応じ、個を生かす支援体制の整備（職員集会での共通理解等）
- ・ 「気になる子」への支援と援助（支援委員会を開催、SC・SSWと連携した支援体制作り）
- ・ 人権感覚を高めるため職員研修
- ・ 人権意識アンケートの検討（心のアンケート等による児童の実態把握）

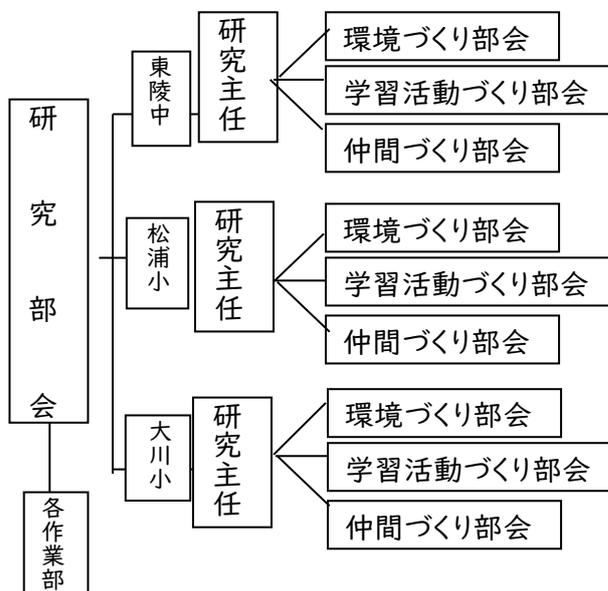
(2) 人権が尊重される学習活動づくり

- ・ 人権に関する学びの場の設定（夢の広場、人権集会、平和集会）
- ・ 部落史・部落差別を解消するための学習（部落史学習・共通教材の授業実践）
- ・ さまざまな人権課題についての学習（各教科、道徳科、特別活動等を活用した学級での実践）
- ・ 人権が尊重される授業づくり
（自己肯定感をもたせる支援、共感的人間関係を育成する支援、対話活動、個に応じた指導授業のユニバーサルデザイン化）

(3) 人権が尊重される仲間づくり

- ・ 支持的風土のもと思いを伝え合い、行動につながる集団づくり（Rタイムなど）
- ・ 子どもと子どもをつなぐ取り組み
（学校行事、集会活動、縦割り活動、委員会活動、クラブ活動などを通じた自主的・創造的な活動の取り組み、朝の会、帰りの会、学級会などの学級での場作り）

6 研究の組織



- ・ 校内での研究推進委員会を必要に応じて開催する。

研究推進委員会

（校長 教頭 教務 研究主任 児童支援 人権・同和教育主任 人権・同和教育担当者）

8 研究の年間計画

(1) 全体計画

	月	日	曜	事項	研究内容	調査
一学期	4	24	水	研究推進委員会	研究の方向性、研究主題	心のアンケート
	5	1	水	全体研究会	研究主題、研究の組織、研究計画 人権・同和教育について	
	6	12	水	専門部会	専門部の活動	
	7			授業研究会（6年）	全体研①、事後研究会	
				授業研究会（5年）	G研①、事後研	
夏季休業	8	2	金	全体研究会	講師招聘による研修	
	8	20	火	専門部会	専門部の活動 2学期の取り組みについて	
二学期	9	4	水	グループ研	指導案検討、指導案作成、 夢の広場計画など	心のアンケート
	10			授業研究会（4年）	全体研②、事後研	
				授業研究会（3年）	G研②、事後研	
	11			専門部会		
				授業研究会（2年）	全体研③、事後研	
				授業研究会（1年）	G研③、事後研	
三学期	2	5	水	専門部会	今年度のまとめ（成果と課題）	心のアンケート
	2	26	水	今年度のまとめ		

(2) 各部の計画

月	環境づくり	仲間づくり	学習活動づくり
4	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援委員会（随時） ・教育相談（随時） ・職員集会（毎週） ・研修：今年度研究の方向性の確認（研究主題・内容等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、集会活動、縦割り活動、委員会活動、クラブ活動など（通年） ・朝の会・帰りの会、学級会、係活動、学級イベントなど（通年） ・「見つめ・語り・つながる」の取組の実践（通年） ・特別支援学級との交流（通年） 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権・同和教育に係る年間指導計画の作成 ・各教科・道徳・特別活動等を活用した人権学習（通年）
5		<ul style="list-style-type: none"> ・運動会 	<ul style="list-style-type: none"> ・夢の広場①「人権」（人権・同和教育担当）
6	<ul style="list-style-type: none"> ・心のアンケート、いじめアンケートを実施（特別校時を組み、全員と面談の時間をとる） 		<ul style="list-style-type: none"> ・夢の広場②「仲間」（上学年・教頭）
7			<ul style="list-style-type: none"> ・部落史学習①（平安時代）

			・平和学習
8	・研修： ・東部地区人権・同和教育研修会 ・伊西地区人権・同和教育夏期講座		・平和集会※ロング (人権・同和教育担当)
9		・Rタイム（朝の時間）開始	・ふれあい道徳 (いのちの教育授業実践)
10		・Rタイム	・夢の広場③「共生」 (下学年・校長・教務) ・部落史学習②（室町時代） ・共通教材による人権・部落問題学習の授業実践（各学年）
11	・心のアンケート、いじめアンケートを実施(特別校時を組み、全員と面談の時間をとる)	・Rタイム	・共通教材による人権・部落問題学習の授業実践（各学年） ・人権作品展の取組 ・人権標語
12		・Rタイム	・人権集会※ロング (人権・同和教育担当) ・部落史学習③（江戸時代）
1		・Rタイム	・部落史学習④（明治時代）
2	・育友会人権・同和教育講演会 ・心のアンケート（気になる内容について個人面談を行う）	・Rタイム ・長縄大会	・部落史学習⑤（大正時代）
3	・研修：支援の必要性を感じる子 についての共通理解(特別支援教育と合同)	・ありがとう集会	